

第3
ステップ

B

はっそう の くんれん

おうちの方へ

第3ステップでは、ことばのレベルではなく、文のレベルでの発想力を鍛えます。ある状況の結果や原因などを想像して、それをことばに表してもらいます。こうすることによって、空想する力と状況を描写する力、そして因果関係を理解し、前後のつじつまの合う状況を考える論理性を養います。

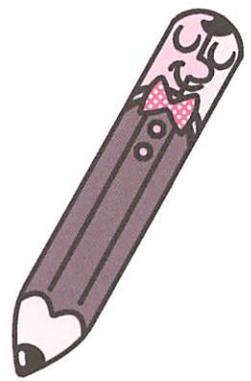
これまでよりも長い語句を書く必要がありますので、お子さんにとつては、それほど簡単なことではありませんが、これを行うことによつて、総合的な力がつくはずですよ。もちろん、答えは一つではありませんので、できるだけたくさんのお答えを考え、もっとおもしろいものを見つけるように、お子さんを誘導してあげてください。

も
ん
だ
い
1

想像力をつける問題①

答えは、べっさつ
6
ページ

() の中なかに入れることばを自じゆゆに
考かんえて、いみいみが通とおるよように文ぶんししよよううをつく
りりままししよようう。



おうちの方への アドバイス



まず発想のおもしろさを
ほめてあげてください
子どもたちは、しばしば因果関係からはずれたおもしろい発想をすることがあります。そのような場合も、発想のおもしろさをほめてあげてください。そして、その上で、その想像が前後関係からつじつまが合わないことを説明してあげてください。それ続けるうちに、お子さんは自分で矛盾などに気がつくようになります。

1 ぼくはおすしが大だいすきです。なぜなら、

() からです。

2 わたしはへびが大だいきらいです。なぜなら、

() からです。

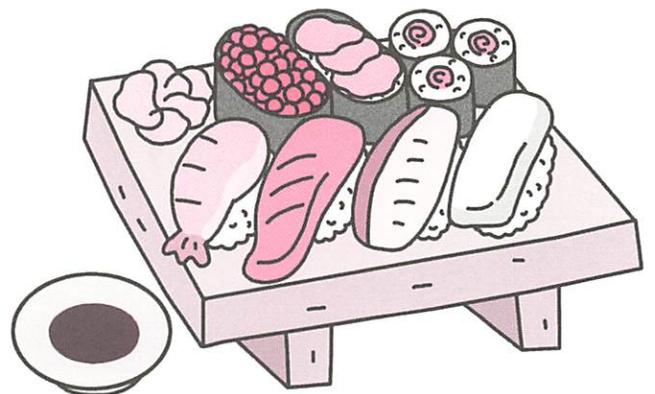
3 毎日まいにち、よくねむると、頭あたまがよくなるらしい。だから、ぼくは、

() 。

4 虫むしばになると、こわいはいしやさんへ行いかないといけない。だから、
わたしは、() 。

5 ぼくのお母かあさんは、よくおこります。なぜなら、

() からです。



6 わたしには、きれいな人ひとがいます。なぜなら、その人ひとは、

() からです。

7 みほちゃんは、いつもチョコレートばかり食たべています。だから、

() 。

8 しんいちくんは、いつも朝あさごはんを食たべてきません。だから、

() 。

9 きょう、りかちゃんは、じゅぎょう中ちゅう、あくびばかりしています。なぜなら、() からです。

10 たろうくんは、きのう、おいしやささんに行いきました。なぜなら、

() からです。



おぼえよう！

「こ・そ・あ・ど」

ことば①

ひと ば
人やもの、場しょなどをさししめ
すことばです。

◎場しょ

【ここ そこ あそこ どこ】

ここはどこですか。

(自分の近くの場しょのとき)

そこは出口です。

(あい手の近くの場しょのとき)

あそこは公園です。

(自分からもあい手からも遠いとき)

どこにありますか。

(わからないとき)

◎方角

【こっち そっち あっち どっち

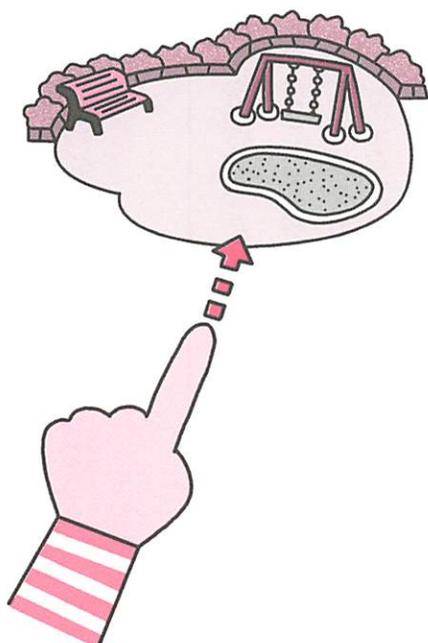
こちら そちら あちら どちら】

こっちへ来いよ。

どっちに行けばいいの。

そちらに行きなさい。

あちらはきけんです。



もんだい 2

想像力をつける問題②

答えは、べっさつ

6 ページ

つぎの絵の場めん、つづきはどうか、自ゆうに考えて書きましよう。



(答えのれい1)

だれもないのだと思つて、どろぼうが入つてきた。

(答えのれい2)

となりのおじいさんが、回らんばんをもつてきた。

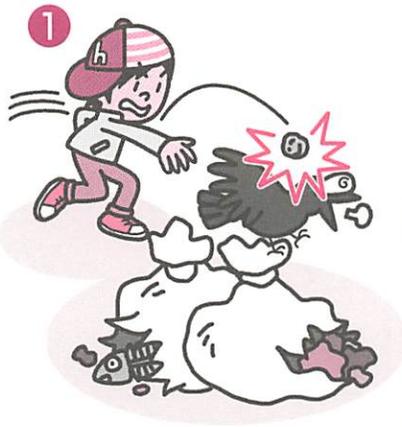
おうちの方へのアドバイス



想像力を高めるための問題

さまざまなことを空想して、想像力を豊かにします。いろいろな状況を考えさせてください。自由に空想を羽ばたかすようにさせてください。宇宙人が登場しても、タイムマシンが出てきてもかまいません。

日常的な空想も大事ですが、ダイナミックな空想も楽しいものです。そして、お子さんが日常的な空想をしたら、もっとダイナミックな空想もしてみるように勧めてください。逆に、ダイナミックな空想ばかりをする場合には、日常的な空想もできるようにさせてください。幅広い空想をしてこそ、想像力が高まります。





おぼえよう!

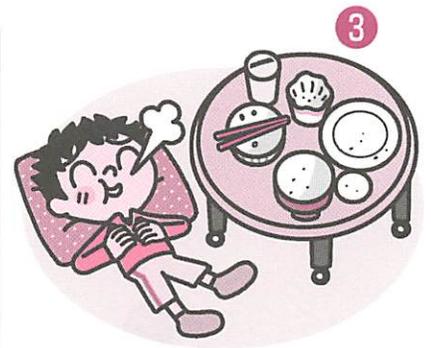
【。丸】、【、点】、
【「 」かぎかっこ】
【()まるかっこ】

【。】は、文^{ぶん}のおわりにつけ
ます。

【、】は、いみの切れ目^{きりめ}をはっ
きりさせるためにつか
います。

【「 」】は、人^{ひと}の話^{はな}したこと
ばにつけます。目^め立たせたい
ことばにもつかいます。

【()】は、文^{ぶん}のちゆう^{ちゆう}でせつ
めい^{めい}を入れたり、つけ足^た
したりするときにつか
います。



() の中^{なか}に入れることばを、じゆうに考^{かんが}えて書^かきましよう。

1 家^{いえ}を出^でて、学^{がっこう}校^{こう}へ行^いこうとしました。

でも、とちゆうで、

()

わたしは、しかたなく、家^{いえ}にまたもどりました。

2 昼^{ひる}休^{やす}み、校^{こう}ていで、

みんなとあそんでいました。

すると、とつぜん、

おうちの方への
アドバイス



想像力を高めるための問題です

前問と同じように、さまざまなことを空想して、想像力を豊かにします。いろいろな状況を考えさせてください。

ただし、今回の問題は前後に文を置くことにより、論理的な整合性も養います。前後の脈絡を考えて、つじつまが合うような内容を想像する必要があります。こつすること、ゲーム感覚でいろいろな想像して楽しむことができます。お子さんがこの問題に答えることができたときには、まずはほめてあげてください。そして、もっとほかにもいろいろな内容は、いか、もっと前後にぴったりの内容は、いっしょに考えてあげてください。それは親子の語り合いの場にもなるはずです。



（
ぼくたちは、しかたなく、教室きょうしつにもどりました。

3 わたしは、夜よる、図書としよかんでかりた本ほんを讀よんでいました。

でも、（
だから、わたしはすぐに、ねむくなつてしまいました。

4 体たいいくの時間じかんでのことです。

なわとびをしていると、とつぜん、

（
みんな、おどろいて、空そらを見み上げました。



5

あるとき、妹いもうとといっしょに、テレビをみ見ていました。
すると、

（

ぼくも妹いもうとも、びっくりしてしまいました。

）。



6

夕方ゆうがた、学校がっこうから、帰かえってくるときです。

とつぜん、（

ぼくは、いそいで家いえまで走はしって帰かえりました。

）。

7

わたしは、にわで、花はなの絵えをかいていました。

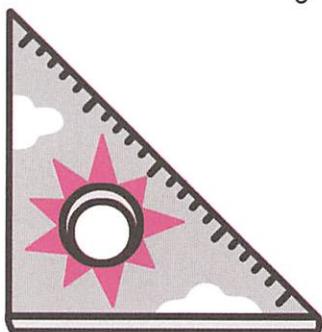
すると、（

わたしはかなしくて、なきたくなりました。

）。

8

きょうの朝あさのことです。

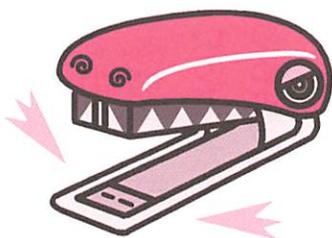
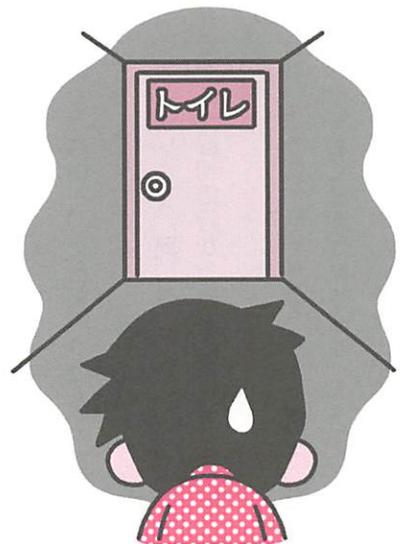


10

お母^{かあ}さんといっしょにデパートに行きました。
 すると、
 また、お母^{かあ}さんと買^かいものに行きたいと思^{おも}いました。

9

おみそしるをのんでいると、中^{なか}から、
 わたしは、びっくりして、お母^{かあ}さんに言^いいました。
 夜中^{よなか}、一人^{ひとり}でトイレに行こうとしました。
 すると、
 それから、ぼくは、夜中^{よなか}、一人^{ひとり}ではもうトイレに行けなくなりました。





第3
ステップ

こうせいを まな 学ぶ

おうちの方へ

第3ステップでは、構成力を身につけるために、これまでのように文を並べ替えるのではなく、自分で文章を考える練習をします。本当は「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」の全文を書いてほしいのですが、文章を書くのが苦手な低学年のお子さんにも気楽に取り組めるように、その一部分を書いてもらうことにします。

このような練習によって、おもしろい話を考え、空想する楽しさを味わいながら、それをうまく構成することができるようになります。同時に、構成の重要性にも気づくはずですよ。

も ん だ い

作文力をつける問題

答えは、べっさつ

7
ページ

お話のつづきを、じゆうに考えて書きま
ししょう。

お話は「ホップ」と「ステップ」まで
書いてあります。つづけて、「ジャンプ」
と「着地」を書きましよう。

おうちの方への アドバイス



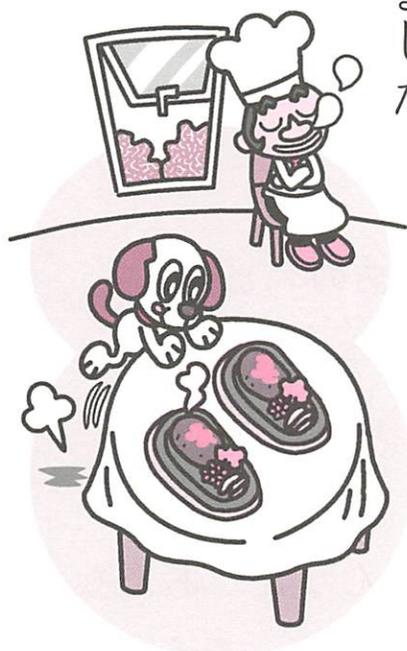
文章を書く場合、最も大事なものは構成力
うまく構成できないと、たとえ一つひとつの文を
上手に書いても、論理性のない、主張の伝わらない
文章になってしまいます。時には、何を書けばよい
のかわからずに、最初の行から途方に暮れることにな
ってしまいます。

そうならないように、低学年のうちから構成力を
しっかりとつけておく必要があります。そこで、第
3ステップでは、これまで学んできた「ホップ・ステッ
プ・ジャンプ・着地」に基づいて、文章を完成する

ステップ

ちようどコックさんはいすにすわって、いねむりをしていました。テーブルの上うえにおいしそうなハンバーグがあります。犬いぬは、ハンバーグを食べたようと、テーブルにとびつきました。

※答えはノートなどに書きましよう。



ホップ

レストランのそばを、一ぴきのやせた犬いぬが、通りとおかかりました。すると、台だいどころのまどがあいていたので、そのまどから、中なかへしのびこみました。

練習をしてもらいます。なお、この先、自分で作文を書くというお子さんには、ぜひとも、本書の姉妹書である「作文力をつける」を読ませてください。

「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」の構成に沿って文章を書く練習です

最後に仕上げとして、かなり難しめの問題を出します。文章書いてもらいます。

ただし、初めから自分ですべて書くのは、まだ無理なので、途中まで書かれた物語の残りの部分を書いてもらいます。

四コママンガのように考えてください。最初の段落がホップです。事件が起こります。次の段落がステップです。事件の続きです。ですが、まだこれだけでは、おもしろくありません。この後、何か大事件が起こります。そして、最後に解決されるのです。

上の物語は、ステップの部分で終わっています。続きの、物語のやま場と、最後の解決をお子さんに考えさせてください。

こうして、物語に参加して、物語ることの楽しみ、書くことの楽しみを知ってほしいのです。

きっと、ほんとうのお子さんには、それほどおもしろい話は考えないと思います。ほかで読んだ話をむりやりくっつけたり、つじつまの合わない話になったりするでしょう。しかし、それでも、話を作ろうとするのは、大変なことなのです。自分で話を作ろうとしたことだけでも、すばらしいことです。ぜひほめてあげてください。そうすることによって、お子さんに自信がつか、ことばを操ることが、もっと好きになるはずです。



おぼえよう！

「こ・そ・あ・ど」

ことば②

これでおしまいだよ。
よくがんばったね。



◎もの

【この その あの どの】

この^{ほん}本 その^{ほん}本

あの^{ほん}本 どの^{ほん}本

◎ようす

【こんなだ そんなだ あんなだ
だ どんناد こう そう あ
あ どう】

こんなにおもしろい^{ほん}本は、は
じめてだ。

そんなに、おもしろかったの。

あんなにおもしろい^{ほん}本はない。

どんنادにおもしろいのだろう。

こうすればいいんだよ。

そうやればいいのか。

このゲームは^{どう}やるの。